

平成 22 年度 山元町常磐自動車道関係発掘調査の概要

— 山元町 西石山原遺跡ほか —

【調査要項】

調査主体：宮城県教育委員会
 調査担当：宮城県教育庁文化財保護課
 調査協力：東日本高速道路株式会社、山元町教育委員会
 調査原因：常磐自動車道建設

遺跡名	所在地	調査期間	調査面積
山王B遺跡	山元町浅生原字山王	平成 22 年 5 月 10 日～6 月 21 日 (追加調査の予定あり)	1,750㎡
浅生原遺跡	山元町浅生原字内平	平成 22 年 5 月 27 日～7 月 13 日	2,165㎡
上宮前遺跡	山元町浅生原字上宮前	平成 22 年 7 月 9 日～7 月 23 日 (追加調査の予定あり)	700㎡
西石山原遺跡	山元町高瀬字西石山原	平成 22 年 7 月 28 日～11 月 予定	約 2,800㎡
北山神遺跡	山元町高瀬字北山神	平成 22 年 7 月 28 日～8 月 18 日 (追加調査の予定あり)	835㎡

1. はじめに

山元町では常磐自動車道山元 I C 以南の建設工事が進められています。道路建設予定地には縄文時代から中・近世まで各時代の遺跡が現時点で 35 遺跡確認されており、工事に先立ち宮城県教育委員会と山元町教育委員会が分担して発掘調査を行うことになりました。

宮城県教育委員会では、平成 22 年度に浅生原地区、高瀬地区にある山王 B 遺跡、浅生原遺跡、上宮前遺跡、西石山原遺跡、北山神遺跡について発掘調査を行っています (第 1 図)。これらの遺跡はこれまで本格的な発掘調査は行われていませんでしたが、事前に行った分布調査などで土器や石器、鉄滓などの遺物が採集されています。

以下、上記の遺跡で検出した遺構と出土遺物を中心に発掘調査成果について説明します。

鉄滓：製鉄をする際にできる不純物の多く混じった鉄くず。残滓。



第 1 図 常磐道の路線と遺跡の位置

2. 発掘調査の成果

①『山王B遺跡』

調査区北部を中心に、掘立柱建物跡9棟・溝跡1条・土坑(穴)8基などを検出しました(第2図、写真1)。

建物1は規模が大きいことや他の建物との位置関係、南側に庇が付くことなどから主屋と考えられ、その他は納屋などと推定されます。建物6の柱穴から寛永通宝が出土していることから、これらの建物跡はおおよそ近世以降のものと推定されますが、建物の組み合わせや性格、時期等の詳細については今後検討する予定です。

また、建物1と建物2の北側に東西方向の溝跡を検出しました。全長約15mで、建物1と建物2の雨落ち溝やこれらの建物と北側の建物群とを区画する溝の可能性がります。

土坑は8基検出し、そのうち3基が形状から判断して落とし穴と推定されます。出土遺物がなく、時期の詳細は不明ですが、縄文時代以降に造られたと考えられます。また、

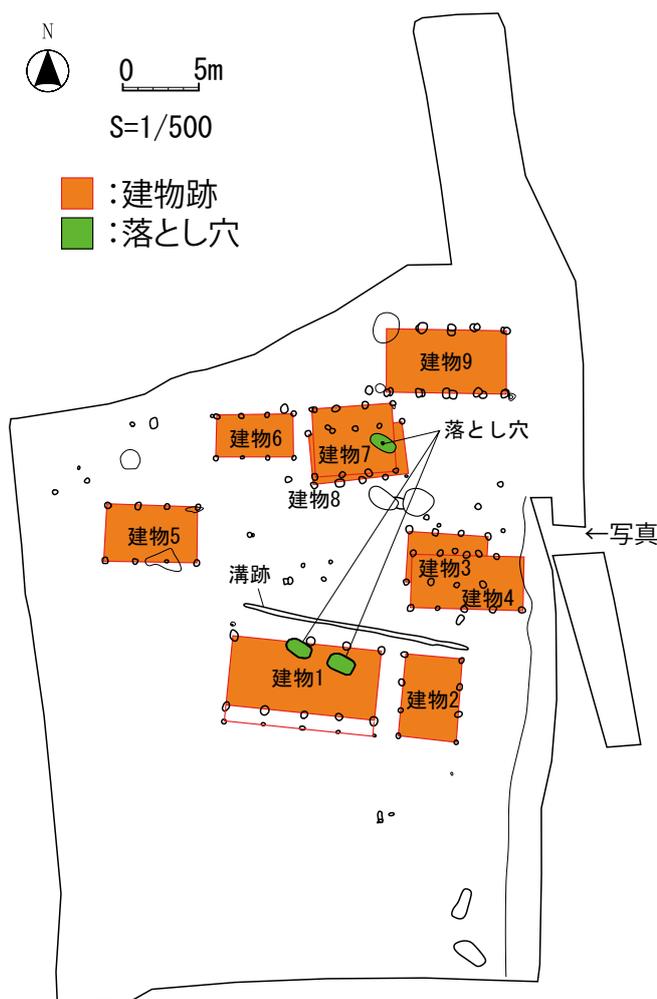
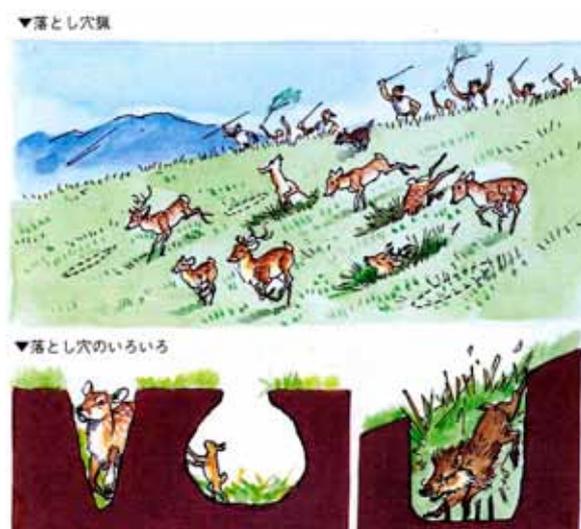


写真1 山王B遺跡検出落とし穴



第3図 落とし穴の断面と獺の想定図
出典: 泉拓良ほか『縄文時代の一万年』集英社



写真2 山王B遺跡の調査区と建物跡(東から)



写真3 山王B遺跡出土遺物

1・2 銭貨(寛永通宝)、3 煙管、4 磁器(近世以降)、
5 縄文土器

底面に直径20cm程の小穴がある落とし穴もありました。杭を立てた跡と推定されます(第3図、写真1)。

遺物は縄文土器や近世の銭貨(寛永通宝)、煙管、磁器などが出土しました(写真3)。

②『西石山原遺跡』

丘陵頂部の平坦面から縄文時代の^{たてあなじゆうきよし}竪穴住居跡9軒、土坑30基以上、丘陵南斜面から奈良・平安時代の^{かま}窯または製鉄炉跡1基を検出しました(第5図、写真5)。住居跡のうち2軒は縄文時代中期末頃(約4000年前)のものと考えられます(第4図、写真4)。このほか時期の詳細は不明ですが、焼け面や土器埋設遺構などがみつかっています。

遺物は縄文時代早期中葉～中期末(約8,000～4,000年前)の土器、石器(石^{せきぞく}鏃・石^{いしきじ}匙・^{すりいし}磨石、装身具など)、土師器、炭塊、鉄滓などが出土しました(写真6)。

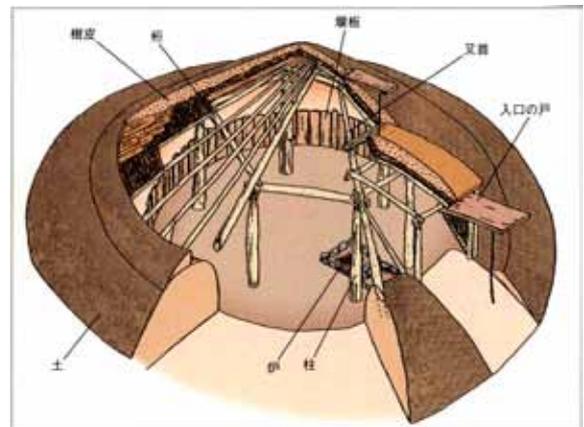
③『浅生原遺跡、上宮前遺跡、北山神遺跡』

浅生原遺跡では近世以降の^{みぞあと}溝跡1条、^{どこう}土坑2基を検出し、縄文土器、陶磁器、煙管などが出土しました。上宮前遺跡と北山神遺跡では時期の分かる遺構や遺物は発見されませんでした。



写真4 西石山原遺跡 竪穴住居跡

中央に石で囲った炉跡(複式炉)があります。削平されたため住居の壁は残存していませんが、壁際に掘った溝跡(周溝)が検出されました。



第4図 竪穴住居跡の復原図

出典: 高田和徳『縄文のイエとムラの風景 御所野遺跡』新泉社



第5図 西石山原遺跡の遺構配置略図



写真5 西石山原遺跡 窯または製鉄炉跡

中央の露頭面に顕著な焼け跡が見え、その手前には掻き出した灰や炭が広がっています(灰原)。現況では斜面の一部が窪んでおり、窯(または炉)の天井が操業後に崩落したと推定されます。

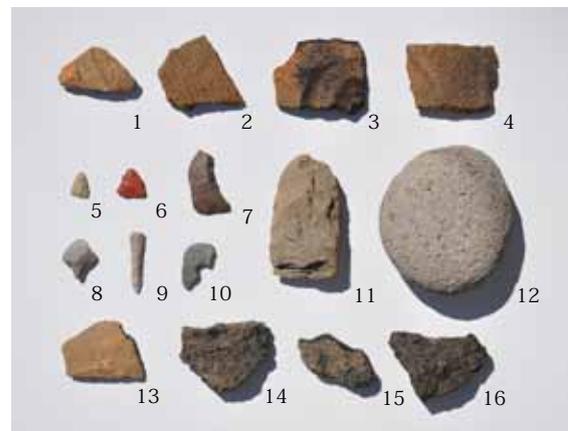


写真6 西石山原遺跡 出土遺物

1～4 縄文土器、5・6 石鎌、7 石匙、8・9 石錐、10 装飾品、11 石錠、12 磨石、13 土師器、14～16 炭塊

4. おわりに

今後も常磐自動車道建設に伴い多くの遺跡を調査する予定で、調査成果がまとまり次第順次公表していきます。山元町の南に位置する福島県相馬地方ではこれまでの発掘調査によって奈良・平安時代の大規模な製鉄遺跡群があることが明らかになっています。山元町で行われる発掘調査でも同様の遺跡が発見される可能性があり、注目されています。また、これまで知られていなかった縄文～中・近世についても大きな発見があるものと期待されます。